柳悦孝のしごと 民藝運動と女子美工芸草創期

2007.11.9fri → 12.10mon

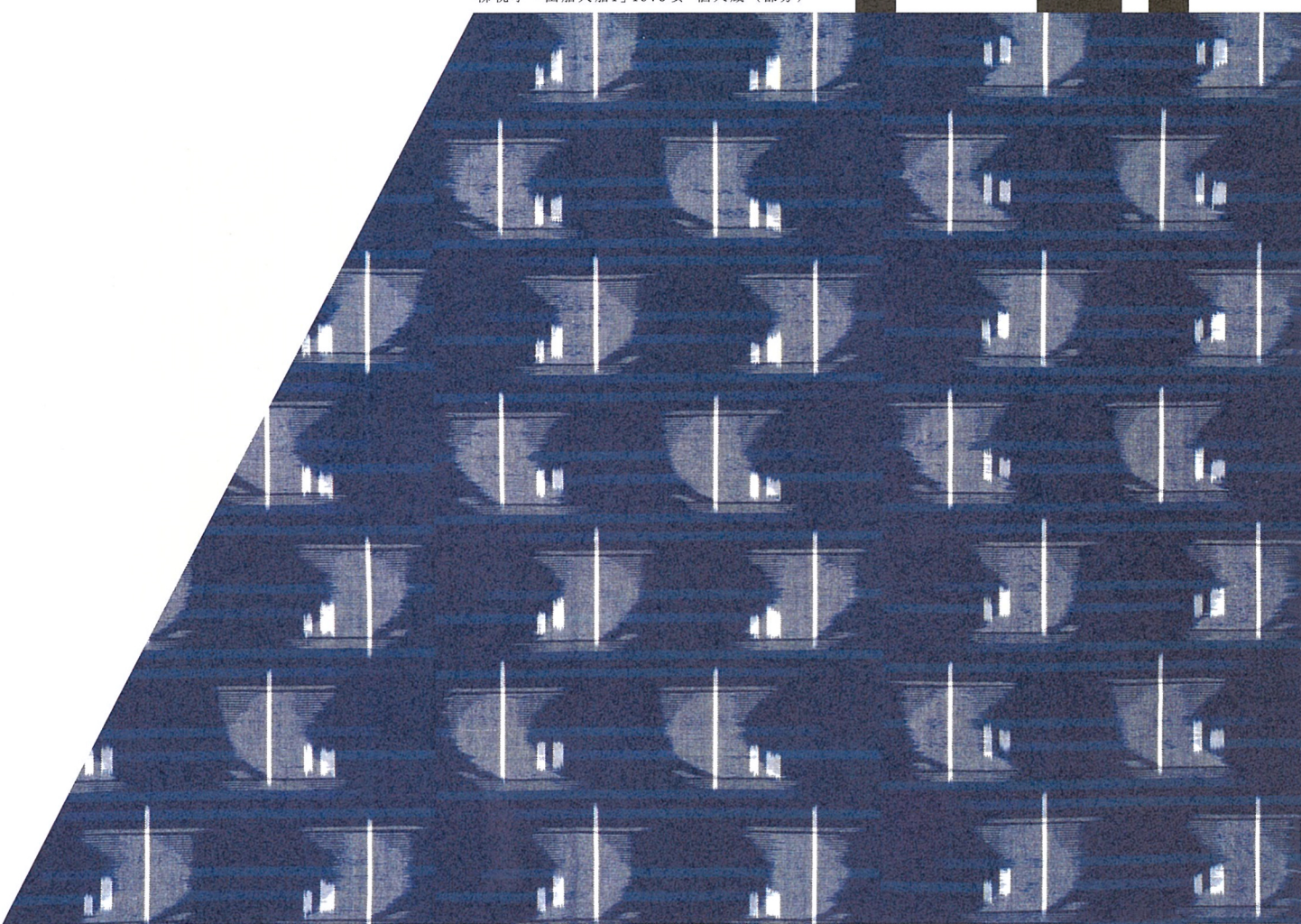
開館時間：10：00～17：00（入館は16：30まで）火曜日休館
入 館 料：一般300円（学生、未就学児、65歳以上、身体障害者手帳をお持ちの方は無料）
会　　場：女子美アートミュージアム
小田急線相模大野駅下車　神奈川中央交通バス　駅前バス乗場3番「女子美術大学行き」約20分
※午前10時前は伊勢丹デパート横グリーンホール4番乗場より発車

主　催：女子美術大学美術館、女子美術大学工芸学科　　共　催：日本民藝館　　協　賛：株式会社求龍堂、大阪日本民芸館　　後　援：相模原市、相模原市教育委員会
協　力：沖縄県立芸術大学附属研究所、学校法人桑沢学園、学校法人筑陽学園、株式会社三越、株式会社用美社、ギャラリーTOM、東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館、女子美術大学ファッション造形学科

JAM
JOSHIBI ART MUSEUM

柳

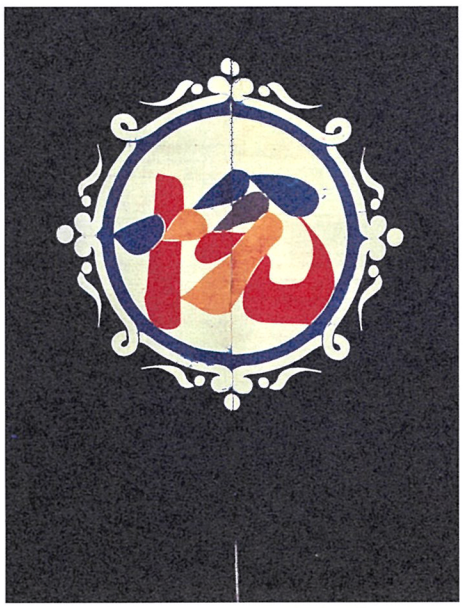
柳悦孝「出船入船1」1975頃　個人蔵（部分）



染織作家・柳悦孝（1911－2003）は、民藝運動の提唱者・柳宗悦の甥にあたり、女子美術大学工芸科の草創期に中心的役割を果たした教員の一人です。草創期の女子美工芸は「自らの手で美しい物を制作する楽しさと、それを使う歓び」を指針に、展示・即売の場として日本橋三越で「女子美染織工芸展」を開催し、また1970年の大阪万博では日本民藝館の展示運営に協力するなど、学生の「ものつくり」が社会とつながっていくことを意識した教育を行っていました。

このような中、手仕事を通して無から有を生み出すことに喜びを見出していた柳は、ただ学生に技術を教えるのではなく、「くり返し仕事をすることから、仕事を学ぶ」ことを説きました。そして学生の創作活動を支援すべく、自ら設計・制作した織機を与え、さらに長時間の作業でも疲れないよう一人一人の体型に合わせて織機を作り変えたといいます。

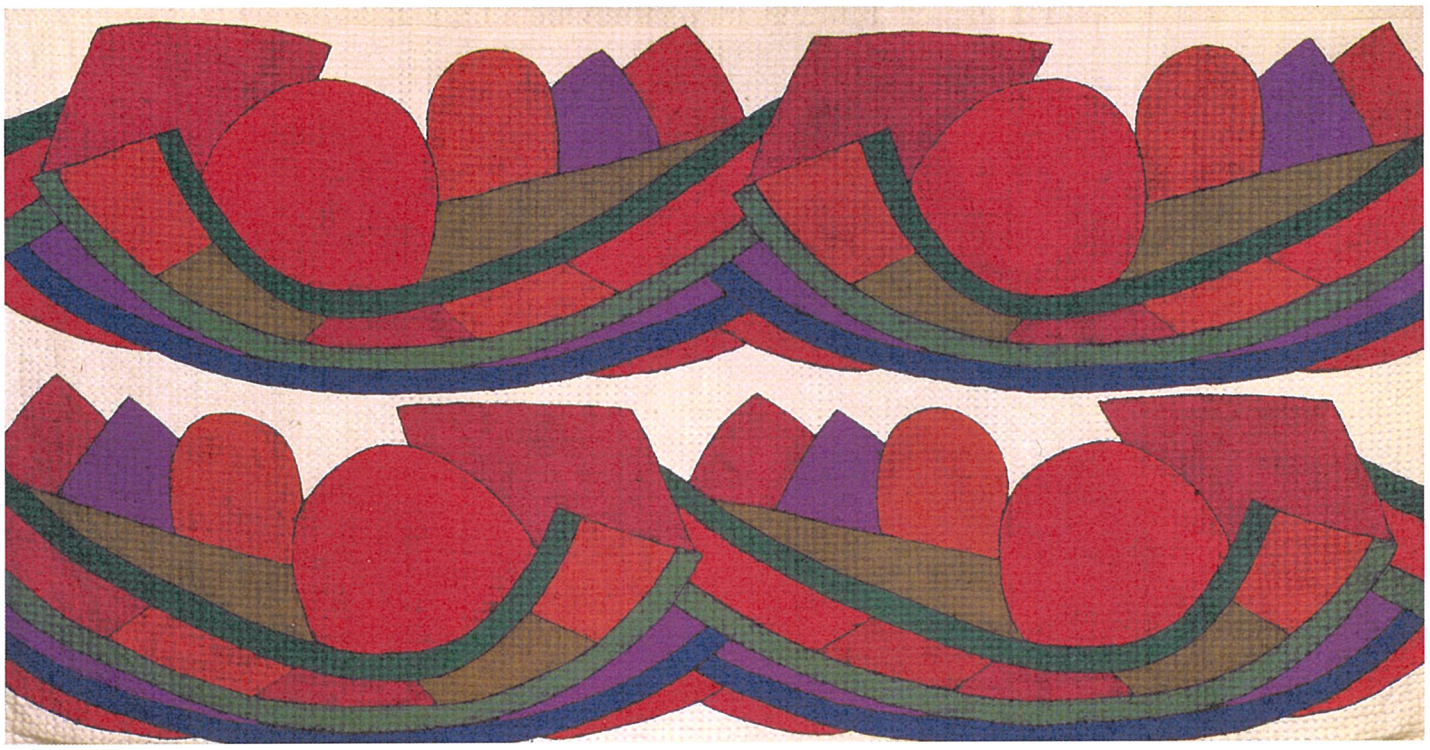
本展覧会は柳悦孝の初の回顧展となります。柳が制作した着物、帯、マフラーなどの作品、考案した織機に加え、芹沢銈介、柚木沙弥郎、四本貴資など女子美工芸草創期の教員作品、学生作品もご紹介します。展覧会を通して、創作活動から女子美工芸での教育に至るまで、柳悦孝が生涯貫き通した「ものつくり」の精神を伝えることができれば幸いに思います。



芹沢銈介「紬 悦の字のれん」 日本民藝館蔵

柚木沙弥郎「早春」1996　個人蔵

柳悦孝「柳絣着物」1982



四本貴資「タペストリー1」学校法人筑陽学園蔵

公式HP http://www.joshibi.ac.jp/jam/　ブログ http://jam.boxerblog.com/

神奈川県相模原市麻溝台1900　女子美術大学 相模原キャンパス 10号館 1階　tel.042(778)6801

女子美アートミュージアム JAM JOSHIBI ART MUSEUM